



世界に希望を生み出そう

脇町ロータリークラブ

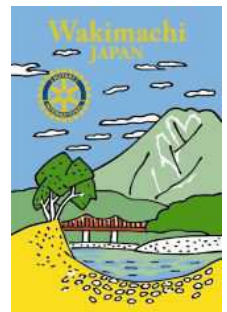
第2670地区

徳島第2分区 脇町ロータリークラブ

2023年10月19日 木曜日

第15回例会 No. 2854

会員総数:40名 出席者21名 修正出席率:52.50%



●メーキャップ

●会長挨拶

川原会長 皆様、こんにちは。本日も、多くの方にお集まりいただき、心からの感謝を申し上げます。先日、私たちが毎年サポートしている美馬市社会福祉協議会から、感謝状と記念品をいただきました。これは、単に、私たち脇町ロータリークラブに向けられた感謝の気持ちだけではなく、私たち全員が一丸となって実現している社会への小さな奉仕の証でもあります。社会福祉協議会は、1951年に、地域の社会福祉を促進するために「社会福祉法」が制定され、この法律の下で、都道府県および市町村のレベルで社会福祉協議会が設置され、その活動が始まりました。地域社会における福祉の向上と社会的な課題の解決を目指す非営利団体で、主な事業内容は、次の5項目です。

1. 社会的な課題の解決: 地域社会に存在するさまざまな社会的な課題や問題に対処し、解決策を提供します。これには高齢者の孤独感、貧困、虐待、障害者の支援などが含まれます。
2. 福祉の推進: 地域社会の人々に福祉に関する情報を提供し、支援することで、個人や家族の福祉を向上させます。
3. 協力と協働: 地域の自治体、NGO、ボランティア団体、事業者などと連携し、協力して福祉の向上を図ります。地域社会全体が協力し合い、福祉サービスを提供し、社会問題に取り組むことで、より効果的な結果が得られます。
4. 福祉プログラムの提供: 高齢者、子供、障害者、困難な状況にある人々など、さまざまな人々に対する福祉プログラムを提供します。これにはホームヘルプサービス、カウンセリング、福祉施設の運営、教育プログラムの提供などが含まれます。
5. 福祉政策への参加: 地域の声を代表し、福祉政策に参加し、提言を行います。政府や地方自治体に対して、福祉に関する政策や予算の決定において、地域の意見を反映させる役割を果たします。

つまり、社会福祉協議会は、地域社会全体の福祉と調和を促進し、社会的な課題を解決するために不可欠な組織です。その使命は、人々の生活の質を向上させ、社会的な公正と連帯感を推進することにあります。こうした活動は、私たちの「奉仕の精神」に通じるものがあります。その社会福祉協議会の活動に寄付という形で関わることは、私たちロータリークラブにとって、我々の価値ある活動を広く社会に広め、より多くの人々に届ける素晴らしい手段となっています。脇町ロータリークラブの先輩方が続けてこられた、このポジティブな連鎖は、私たちの社会に確実に良い影響をもたらしています。これからも、この温かな連鎖を、更に広げ、次の世代にもつなげていきたいと思っております。本日も、お付き合いいただき、ありがとうございました。

●幹事報告

佐藤直樹幹事

到着週報 鴨島 阿波池田 美馬 洲本各RC

到着書類

連絡事項

●委員会報告

職業奉仕委員会 11月9日(木) 移動例会 薪おじさん新店舗-訪問(高松空港付近) 昼食:川田うどん(予定)
遠藤会員 出欠の確認と移動手段が単独か乗り合わせかを、来週ご回答ください。

ゴルフ部長 5クラブ親睦ゴルフ 団体戦:優勝 脇町(橋本、小笠、河合、細川、岡本)
笠井会員 技術賞:ドラコン(橋本、橋本、小笠) ニアピン(笠井、宮本)

卓話 今日ドタキャンが3名、途中退席される方もチラホラと、非常に少ない会員数ですが精一杯卓話を
六車会員 務めたいと思います。まずもって前期、私の会長年度には大変皆さんお世話になりました。

友成プログラム委員長から、卓話の依頼がありましたが、会長時代に大概しゃべって、毎週毎週、私の話はもう十分だと、宮本兄ちゃんに言われそうです。今日はお時間いただきまして、会長挨拶では話せなかったような話をさせていただけたらと思っております。

とはいえ先週の河野会員の素晴らしい卓話、のど自慢。また、鉄鋼王と言われる方の、とこ自慢。また同じ、警備界の帝王と呼ばれております方の、お金自慢。皆さん、自慢をたくさんお持ちでございましょうが、残念ながら私に自慢できるものはほとんどありません。何をしゃべるのかということを考えて時に、私は「ゴルフ場で地中を掘らないようになって、田畑を掘り出したのか」について話ができたと思います。ちなみに私は皆さんから、美馬市の節税王と言われております。

それでは本題に入らせていただきます。私は兼業農家の次男として清水に生まれました。

もの心ついた頃には、牛(乳牛と肉牛の両方)を飼っておりました。牛のお世話というのは大変で、毎日、牛の餌をやったり、また牛はきれい好きな為、糞を取ったり、寝床の入れ替えを5~6歳の頃からやっておりました。また祖父祖母と両親と私、兄弟二名は農作業に従事しておりまして、親父は勤め人でしたが、朝5時頃から起きて5月の田植え時期には田を一枚二枚植えてから出勤をしていたことを今でも覚えております。親父が帰宅すると、すぐさま草刈機を持って草を刈り出すので、私は学校から帰ってきて見たいテレビを見ていたのですが、親父が草刈機を動かす音がすると、すぐにテレビを見るのをやめて熊手を持って父親が刈ったあとの草を集めていく、そんな日々でした。ですが、親父からは晩酌の時に、草刈りをしたのに来なかったと言われ、お説教を食らう羽目になるので、親父が帰ってきて草刈をしだしたらすぐに、親父の手伝いをしていた思い出があります。なので、日曜日というのは、私にとって休みではありません。友達が遊びに行こうと誘ってくれるのですが、出ていけません。両親が今日は何をする、今日はあれをするというので、日曜日ごとに農業の予定を入れられ、誘ってくれる友達にお断りしていました。極めつけは5月のゴールデンウィークです。これは地獄の休みでした。私らの界隈ではゴールデンウィークのことを「百姓休み」というふうに言いました。連休の間にやらなければならない作業というのが多く、子供ながらに大嫌いな休みでした。

今でも覚えておりますが、私が歳をとっても、農業の手伝はしてきたのですが、私が平成17年の2月から、今の会社を起業致します。当然、起業をしましたので、農業なんかには全く心が入るような余裕はございません。2~3年は本当に自分の商売のことを、精一杯やり遂げると言う思いで、農業については全く見向きもしなくなりました。親父も私の起業を知ってか、百姓手伝いをしろと言わなくなりました。商売も軌道に乗り出して、二年ぐらい経った時に、私は親父にひどいことを言ったのを覚えています。米作りはそろばん弾いてできるかということを問いかけました。それはほぼ嫌味です。商売である程度成果が出て、利益も出して商売というものを自分がしてみた時に、このしんどい365日、休む暇なくやらなければならない百姓は、本当にそろばんを弾いてみたら、いったいどのような結果が出るんだということを私は親父に突き付けたというか、まあ生意気だったんでしょうね。そういうことを聞くと、その時に親父がうーんと目をつむるような感じで出た言葉なんです、「まあご先祖さんから、譲り受けた土地じゃけんの。銭金には変えられん。」と答えを言われたことを覚えております。のちにその意味を知ることになります。

見る限り田畑があると思いますが、山間部でしたら、山を削って手作業で削って開墾し、ご先祖さんたちは田畑というものを手に入れたわけです。それと同時に知ることですが、一町(一反が300坪)、一町3000坪の田畑を作るのに二年を要したようです。その中で、敷地が内側だ、外側だともめる境界について思うのですが、昔の人が自分の土地を耕す時に大きな石が出てきた場合、それを掘り起こさなければなりません。また大きい木の株があったら、それも掘り起こさなくてはならない。そういう思いの中で境界が1尺、2尺どっちになっても、大したことなく現代人の考え方はありますが、実際にそこを開墾した人たちにとれば、この1尺を田畑にするために、どれだけの労力がかかったのかは、今の私たちには想像ができません。そんな折、親父が入院を致しまして、農業がなかなかできないような状態になります。そこで親父は私に、「もう百姓やめよう」と言ってきました。多分ですが親父は、私はもうやめるわと言うと思ったのでしょうか。

ご存知の方もおられるかと思いますが、青森県の弘前市に木村秋則さんという【奇跡のリンゴ】というのを作った方がいます。映画や本にもなったのですが、ある時、木村さんの本に出会いました。

卓話
六車会員

奇跡のリンゴを簡単に説明すると、木村さんは 1971 年、私が生まれた年に勤めていた会社を辞めて、実家の青森県、岩木山のふもとの弘前市、旧の中津軽郡でリンゴ農家の跡目として、リンゴ栽培に関わりました。奥さんとリンゴを作る中で、リンゴは農薬、消毒を徹底してやらないと実がならないそうです。ですが木村さんは、奥様がりんご畑に行くたびに体調が悪くなり、農薬によって一緒にリンゴ栽培ができないことを危惧し、1978 年から無農薬のリンゴを栽培すると、心に決めて取り組んだそうです。しかしリンゴを無農薬で栽培するというのは、不可能に近い。アブラ虫や害虫を一生懸命で手で捕り、お酢をかけたりと色んなことをしましたが、十年経っても一向にリンゴが実ることなく、どんどん借金が膨れだします。地元では木村さんのことを、地元の方言で【かまど消し】と呼んでいました。愚か者ですよ、かまどを消すっていうのは。そういった非難中傷を受けましたが木村さんは諦めることなく無農薬にこだわってリンゴを作り続けました。十数年経ち、一つになり、二つなりそのリンゴは無農薬で生産され、今では普通に栽培されるリンゴと同じ量が取れる程になったそうです。ですがその奇跡のリンゴは早くから有名になってしまい、なかなか市場には出回らない代物になってしまいました。私は一度食べてみたいのですが、残念ながらなかなか手に入りません。木村さんのそういった、作物に対する思いっていうのが、私の中にありましたので、米作りを自分でやってみると言うことを、病室のベッドの上の親父に伝えます。その時に親父は目を潤ませながら頷いた表情をしたのを今でも覚えております。

あまのじゃくな私は、米作りの大御所さんがいるなか、アドバイスをくれる方や、私のやることを否定してくる方もいまして、そういった諸先輩の指導を無視して、米作りにチャレンジをいたしました。私は木村さんのように、無農薬に取りつかれたのではなく、本当のお米の味っていうのはどうなんだろうと考えていました。幼少の頃に、山で採ったいろんな実はそれほどおいしくありませんでしたが、食べた後には、何ともいえないさわやかな味や香りが残るものがたくさん山にありました。今は品質にこだわり、甘さとか、見栄えのいいものに作物はこだわりつづられます。この作られた味というのが、本当に本物の味なのだろうか、私は疑問を持ちました。当時は、そろばん弾きだの、儲けてやろうだのというよこしまな考え方でしたが、今では全くそのような考え方ありません。ただ単に自然に近いお米を作りたいその一心です。ですから、私のお米は独自の栽培方法です。

一つ申し上げますと、種もみでは、育苗ケースにまいて芽を出します。その芽が出た時に1週間ほど約三度の冷蔵庫で冷やします。普通こんなことはしません。その種もみにストレスをかけるためです。一年間、日照りが良くて水がたくさん豊富な気候かどうかわかりません。田んぼに植えてしまうと、自然の中で育てもらうために、あえて冷たい所に一週間、その年が寒い年であっても、種もみが覚えています。そういった環境で育てた種もみですが、育つ過程で葉が 1.5 葉ぐらい出た時に全部、摘んでしまいます。通常は植え付けるまで、シルバシートで保護して、きれいな苗を作ります。しかし私は 1.5 葉ぐらいのときに、すべてを摘みとり、外に出して日中は関係なく、日にさらしてしまいます。一昨年なんかは、霜に 3 回も見舞われてしまい、真っ赤になりました。それでも稲というのは枯れることなく、ちゃんと田植えをすると育ちました。また苗を立てる中で1週間に一回、18 キロの重さのローラーを、稲の上で転がしてわざと倒します。倒したらまた起きてきますので、また 1 週間したら今度は逆から倒します。おそらく私の周辺の人が見ると、六車さんは大変なことをしていると思っただけです。ほかの生産者の方は、苗を過保護に育てています。しかし私はストレスをとことん与えます。そうやって田んぼに放った苗はどんどん成長して行くわけですが、農薬もほぼ撒きません。肥やしもほぼやりません。結果として何が表れるかという、イノシシが田んぼに入るのですが、隣の田んぼでは、イノシシが稲を食べます。しかし私の田んぼは食べられません。おそらくですが美味しくないのだと思います。必要以上に栄養を与えてないため、美味しくないことが鳥獣にもわかるのだと思います。私のお米がおいしいかどうかはわかりませんが、自然に近いお米を目指すということを、今後も目指して行きたいと思っております。

最後に耕作放棄をする農家が本当に増えてきております。しかし先ほど私が申し上げました通り、次の世代が農業に興味を持つようなそんな時代であってほしい、我々のご先祖が一生懸命、手作業で大事な田畑を作り上げたその思いは、親父が言ったお金、そろばんに左右されるようなことではないのかなと、つくづく思うような年になりました。今後も、ゴルフクラブではなく鎌を片手に、一生懸命地中を掘って、素晴らしいお米が作れるようにがんばって参りたいと思っております。

ええそれでは、ここで名台詞。

「本日も皆様お元気に、私の卓話を聴いていただきまして、どうもありがとうございました。」

以上で終わります。

●例会ダイジェスト

今週の見出し！

ヤバっ…。例会の写真撮り忘れちゃった！

1. 奇跡のリンゴ。



2. ポリオ根絶祈願！



1. 実物ではございません。(フリー素材より)

2. 七番札所十楽寺 山門前にて記念撮影。

3. 木製ベンチ寄贈。



4. ストレス×無農薬＝
美味しいお米？



3. 沢山の人に使ってもらいたいですね。

4. 秘伝。六車式稲作農法 確立まで「あと少し」

次回例会	2023年10月26日(木)12:30～
プログラム	清月屋敷 卓話 笠井会員

- ☆ 次の会員は例会欠席でした。 一井会員、岡本会員、小野会員、上柿会員、木下会員、郷司会員、小河会員、白川会員、須藤会員、千葉会員、鉄野会員、豊島会員、橋本会員、秦会員、藤村会員、藤原武志会員、細川会員、南善幸会員、吉野会員

メイクアップして下さい。

- ☆ 次回例会の出欠を黒川出席委員長まで連絡してください。